C-2　受身・可能とその周辺構文によるヴォイス体系の対照言語学的考察
—古代日本語とスペイン語—

志波 彩子（名古屋大学）

【キーワード】古代日本語，スペイン語，対照言語学，ヴォイス，受身，可能，自発，自動詞

1.

本研究では，ヴォイスの体系の中で同じように「自然発生」の意味を持つ自動詞構文から「受身」や「可能」の意味を表す構文を発達させている古代日本語のラル構文と現代スペイン語の se 中動態を対照し，それぞれの言語が持つ受身と可能の構文タイプはどのようなものかを明らかにした上で，ヴォイス体系の共通点と相違点を考察する。

2. Parallelism between spontaneous intransitive and passive/ potential constructions

◆ 「自然発生spontaneous」自動詞構文とは : 外的動作主の力なしに，主語に立つ対象の特性と何らかの外的要因によって，変化が実現する。

自然発生（中立視点）と，実現を意図する動作主を含意させた自動詞構文（動作主視点）

(1) a. 糸が｛切れた／なかなか切れない｝。
　b. 砂の山が｛風で崩れた／やっと崩れた｝。

受身（中立視点），可能（動作主視点）との平行性（志波2018）

(2) a. 会議場前に｛（数台の）車が止められた／（ようやく）車が止められた｝。
　b. （捨てられるかどうか不安だったが，結構）海にたくさんのゴミが捨てられた。

(3) a. 日本ではこの魚は｛よく食べられます／美味しく食べられます｝。
　b. ここには｛よく車が止められる／簡単に車が止められる｝。
　c. この魚は通常生で食べられます。（志波2018）

動作主がほとんど想定できない受身構文も少なくない＝中立的視点の自動詞構文に限りなく近い

(4) a. 環境が変わると，新しく脳機能がつくり変えられる。
　b. 外国から入ってきた料理も，いつのまにか，日本的に味が同化されてしまう。
　c. 多くの問題が残された。

◆ 中立視点の自然発生の延長にあるのが，上のような本来外的動作主がいなければ起こり得ない事態を，その動作主を背景化して事態実現に焦点あてた非情主語受身構文＝自動詞相当受身構文⇒スペイン語のse中動態の発達過程

◆ 動作主視点で，自分に対して事態が自然発生する（意図した変化が実現する）ことを述べる自動詞構文の延長にあるのが実現系可能構文⇒日本語のラル構文

◆ 志波（2018）では，近世以前の日本語に中立視点の自動詞相当受身構文が存在しなかったのは，他言語がこの受身を発達させた領域に，日本語は自発・可能を確立したからであると述べた。

◆ 一方で，スペイン語のse中動態にも可能の意味を帯びる構文がある＝(3)のような，超時で動作主の動作様態（プロセス）を修飾する副詞句を伴う構文⇒スペイン語のse中動態の中動受身構文（潜在系可能）

3. The voice system with *-(r)are-* in Early Middle Japanese 中古のラレによるヴォイス体系

◆ -(r)are-は，ラ行下二段活用の自然発生自動詞の類推から文法的接辞として取り出された（柳田 1989，釘貫 1991）

⇒ 当然「自然発生」という意味を継承している。と同時に，ラル構文は話し手の「視点」と強く結びついた構文であった（志波 2018）。

さて，ラル構文は，「有情者（自分）に対して行為が自然発生する」という述べ方で述べるための構文であった。このとき，有情者に対して自分に意志がない（当該行為を積極的に選択していない）のに，何らかの要因によって自分の行為が自然発生するのが**自発**である。そして，有情者に行為実現の期待はあるが意志はないのに何らかの要因によって自然発生するのが**肯定可能（実現）**である（吉田 2013）。また，有情者が実現を期待して行えば通常実現する行為が，何らかの要因によって自然発生しないのが**不可能（不実現）**であると考えられる。さらに，有情者に対して自分の意志と関係なく他者によって行為が自然発生するのが**受身（受影受身）**なのだろう（志波 2018b: 181）。

3.1 Non-volitional construction 非意志構文（＝自発，Agent's standpoint，actual tense-aspect）

(5) 【自動詞】「生けるかひなきや、誰が言はましごとにか、　うつせみの世はうきものと知りにしをまた言の葉にかかる命よ　はかなしや」　と、御手もうちわななかるるに、乱れ書きたまへるいとうつくしげなり。（源氏・夕顔，新全 20: 190）

(6) 【動作動詞】「【前略，女性の漢字の多い消息は】心地にはさしも思はざらめど、おのづからこはごはしき声に読みなされなどしつつ、ことさらびたり。【後略】」（源氏・帚木，新全 20:89，川村 2012:170）

(7) 【自発否定】この若人ども、はた世にたぐひなき御ありさまの音聞きに、罪ゆるしきこえて、おどろおどろしうも嘆かれず、ただ思ひもよらずにはかにて、さる御心もなきをぞ思ひける。（源氏・末摘花，新全 20:284）

3.2 Non-realization construction 非実現構文（＝不可能，Agent's standpoint，actual）

(8) 恋しからむことのたへがたく，湯水も飲まれず，同じ心に懐かしがりけり（竹取，此島 1973）

(9) とある御返り、目もあやなりし御さま容貌に、見たまひ忍ばれずやありけむ、（源氏・紅葉賀，新全 20:313）

3.3 Realization construction 実現構文（＝可能，Agent's standpoint，actual）

◆ 渋谷（1993）等はこれを「自発」とするが，期待はあるが意志はないのに実現する（吉田 2013）

(10)いといたく荒れて、人目もなくはるばると見わたされて、木立いと疎ましくもの古りたり。（源氏・夕顔，新全 20: 161）

(11)何心もなくゐたまへるに、手をさし入れて探りたまへれば、なよよかなる御衣に、髪はつやつやとかかりて、末のふさやかに探りつけられたる、いとうつくしう思ひやらる。（源氏・若紫，新全 20: 243）

◆ 古代語のラル構文の可能は，行為者の能力や対象の特性による潜在的な可能ではなく，個別の具体的な行為者を取り巻く状況や行為者自身の一時的状態による可能（実現・非実現）を表した。（渋谷 1993 等）

3.4 Stative passive construction 状態受身構文（Neutral standpoint，actual）

(12)・・・西ざまに見通したまへば、この際に立てたる屏風も端の方おし畳まれたるに、紛るべき几帳なども、暑ければにや、うちかけて、いとよく見入れらる。（源氏・空蝉，新全 20: 119）

(13)御女の染殿后の御前に，さくらの花のかめにさゝれたるを御覧じて，（大鏡・上，新全 34:66）

3.5　Inanimate-inanimate passive construction 非情-非情受身構文（Neutral standpoint，actual）

(14) 年経ても磯うつ浪にあらはれていはほの苔はむすひまもなし（新続古今，雑中，山田 1908:376）

(15) おほきなる木の風に吹きたうされて根をさゝげてよこたはれふせる。（枕草子 120 むとくなる物, 新全 18: 231）

◆　自動詞構文のニ格と連続的（志波 2018）

(16)（つらゆき）吉野河岸の山吹ふく風にそこの影さへ移ろひにけり（古今和歌集，3 巻第二，新全 11:.2）

(17) 御前の五葉の雪にしをれて、下葉枯れたるを見たまひて、（源氏・賢木，新全 21: 99）

3.6　Inanimate-subject passive construction with implicit affetee 潜在的受影者のいる非情主語受身構文（Affectee standpoint，actual 多）

(18)【前略】この君さへかくおはし添ひぬれば、春宮の御祖父にて、つひに世の中を知りたまふべき、右大臣の御勢は、ものにもあらずおされたまへり。（源氏・桐壺，新全 20: 48）

(19) ありしながらうち臥したりつるさま、うちかはしたまへりしが、わが御紅の御衣の着られたりつるなど、いかなりけん契りにかと、道すがら思さる。（源氏・夕顔，新全 20: 180）

3.7　Animate-subject passive construction 有情主語受身構文（Affectee standpoint，actual 多）

(20)『【前略】世にいささかも人の心をまげたることはあらじと思ふを、ただこの人のゆゑにて、あまたさるまじき人の恨みを負ひし果て果ては、かううち捨てられて、心をさめむかたなきに、いとど人悪ろうかたくなになり果つるも、前の世ゆかしうなむ』（源氏・桐壺，新全 20: 31））

(21)「【前略】いかになりたまひにきとか人にも言ひはべらん。悲しきことをばさるものにて、人に言ひ騒がれはべらんがいみじきこと」（源氏・夕顔，新全 179）

4.　The middle voice system with *se* in Spanish スペイン語の se 中動態

se はもともと再帰代名詞であるが，用法（構文）が拡張して中動態（middle voice）の領域をも表わすようになった。中動態とは，元来古代ギリシャ語やラテン語にあったような動詞の屈折による体系のみをさす用語であったが，Kemmer（1993）により，以下の「4.2 Introverted Reflexive」に相当する状況タイプに同一の標識が用いられる場合，その言語は中動態を持つということが提案された。本研究でも Kemmer の提案に賛同し，中動態は現存する多くの言語のヴォイス体系の中核にある重要なカテゴリーであるとみなす。以下，用法が派生した順に並べる。この順序は主語の自己制御性が低くなる順序でもある。

4.1　Extroverted reflexive construction 外向的再帰構文 (Hainman 1983, Otero 1999)

◆　有情主語，se の人称変化あり，a sí mismo（自分自身）の句を付与できる，他動詞のみ

◆　本来他者に行う行為の対象がたまたま自分自身である再帰。

(22)　a. Juan ama a María.　フアンはマリアを愛している

　　b. Juan **se ama** (a sí mismo).　フアンは自分（自身）を愛している（*フアンは愛されている）

(23)　a. (Yo) Miré a Carmen.　私はカルメンを見た

　　b. (Yo) Me miré.　私は自分を見た（*私は見られた）

4.2　Introverted reflexive[1] construction 内向的再帰構文

◆　有情主語，se の人称変化あり，能動態との対応は様々（自動詞も有り），Kemmer（1993）が中動態の中心領域と考える状況タイプ。本来主語自身に向かう行為。

(24) Grooming：Javier **se afeitó**. / María **se peinó**. ハビエルは髭剃りした / マリアは髪をとかした

(25) Change in body posture：José **se levantó**. / **Me agaché**. ホセは起き上がった / 私はしゃがんだ

(26) Self- benefactive: **Se construyó** una casa. 彼は（自分のために）家を建てた

(27) Naturally reciprocal event: pelearse 喧嘩する, encontrarse 会う，etc.

(28) Emotion middle：enojarse 怒る，alegrarse 喜ぶ，enamorarse 恋する lamentarse 嘆く，etc.

(29) Translational motion：irse 立ち去る，subirse 登る, pararse 止まる, quedarse 留まる，etc.

(30) Cognition middle：pensarse 考える，creerse 思い込む, saberse 知っている, acordarse 覚えている，etc.

(31) Spontaneous events「なる」：ponerse，volverse，hacerse，convertirse

4.3　Ergative Construction 能格構文

◆　非情主語，se の人称変化なし，他動詞を自動詞化する，主語は動詞に前置も後置もする。

◆　主語に立つ物の特性（property）と何らかの外的要因によって，人間の動作主が関与せずに事態が自然に発生する（変化が実現する）。

(32) romperse 壊れる, derretirse 溶ける, doblarse 折れる, calentarse 温まる, teñirse 染まる, secarse 乾く, abrirse 開く, arrugarse しわになる, hundirse 沈む, apagarse 消える, mejorarse 良くなる, pegarse くっつく，　etc.

4.4　Middle-passive (facilitative) construction 中動受身構文

◆　英語の中間構文（middle construction）に相当するが，se 中動態では能格も受身も表わすことから，英語よりも広範囲の動詞（状態動詞以外）で中間構文が成立する（Sánchez 2002）。

◆　主語は定名詞で動詞に前置する，se の人称変化なし，副詞句があるのが典型，超時（atemporal）のテンスアスペクト。動詞は典型的に外的動作主がいなければ起こり得ない事態を表わし，総称的動作主を含意する点で，受身構文の下位タイプであるとも言えるが，動作主句を por（によって）で表せない点では能格構文に通じる。ただし，時制は未完了時制（超時）に限定される。

◆　超時テンスで動作様態修飾の副詞句を伴うことで，総称的動作主の意図・期待が含意され，「動作主が意図すれば行為が実現するだけの許容性が対象の特性としてある」という意味で潜在系の可能の意味を帯びる（尾上 1998）。かつ実現の許容性が対象にあることから対象可能である。

(33) a. Este libro **se lee** fácilmente.≒Este libro se puede leer fácilmente . この本は簡単に読める

b. Este tejido **se corta** con mucha facilidad.この布はごく簡単に切れる

cf. **Se leyeron** muchos libros durante aquel semestre.（受身）当時の学期中は多くの本が読まれた

◆　受身構文では人主語は認可されないが，中動受動では許容される（過去時制では不自然になる，Sánchez 2002: 66）。しかし，否定でしか成り立たないと見られる。

(34) a. Los hijos no **se escogen**. 息子というものは選べない

b. Los maridos no **se encuentran** fácilmente. 夫は簡単に見つからない

(35) Este pescado se come crudo. この魚は生で食べられる

---

[1] Haiman（1983）の用語。ただし，外延は Haiman のものより広く，Kemmer（1993）の中動状況タイプ（middle situation type）を含めている。

4.5 Intransitive passive construction 自動詞相当受身構文

◆ 非情主語で se の人称変化なし。Ser（be 動詞）と過去分詞による受身に比べ，対象が主題化されることは少なく，主語は動詞に後置するのが無標の語順。手段・原因的な動作主性の低い動作主句を por（by）で表すことも可能とする文献もあるが，使用は極めて少ない（Sánchez 2002: 58-60）。

◆ 本来外的動作主がいなければ起こりえない（他動的）事態を，動作主を背景化し，「誰がやったか」ではなく「何がおこったか」という事態の実現を前景化して自動詞相当に述べる。

(36) firmarse（署名される），utilizarse（利用される），construirse（建築される），escribirse（書かれる），etc.

(37) En 1880 **se publicó** en Londres su libro. 1880 年に彼の本がロンドンで出版された

4.6 Impersonal construction 非人称構文

◆ 動詞と一致する文法項としての統語的主語を欠いているが，単数の対象が項としてある場合，受身との区別はできない。受身構文同様，「誰がやるか」ではなく「どんな事態があるか」という事態の実現・存在を述べる。ただし，常に総称的ないし不特定動作主の含意がある。

(38) Se habla inglés y francés en Canadá.　カナダでは英語とフランス語を話す

Cf.) Se hablan inglés y francés en Canadá.　カナダでは英語とフランス語が話されている

◆ 文脈構造上，もしくは副詞句により動作主の意図が含意されれば可能の意味を帯びる。

(39) a. Se va a la estación por esta calle. この道を通って駅に行ける（人は一般にこの道を通って駅に行く）

b.(¿Cómo se entra?)－Se entra por aquí.　（どうやって入るの？）ここから入れるよ

(40) a. Se come bien en este restaurante.　このレストランでは美味しく食べられる

b. Se vive bien por aquí. この辺は暮らし向きが良い（人は一般に良く暮らす）

5. Comparison of the voice systems ヴォイス体系の対照

5.1 Passives 各言語の受身

◆ 古代日本語-(r)are-の受身構文は，有情者に視点があり，「自分に対して事態が自然発生する」という意味で確立したため，有情主語の受身が主流であった。非情主語の受身は，状態受身か潜在的受影者のいる受身に限られ，「ビルが建てられ，チラシが配られた」のような，動作主を背景化して自動詞相当に実現局面を述べる受身は存在しなかった。

◆ スペイン語の se 中動態における受身構文は，「自然発生（変化実現）」の能格自動詞構文から派生し，中立視点で，「事態が発生する（変化が実現する）」ことを述べる非情主語の自動詞相当受身構文を確立した。

5.2 Potentials 各言語の可能

◆ 古代日本語-(r)are-の可能構文は，特定の個人の有情者を取り巻く一時的状況によって「自分に対して事態が自然発生する／しない」ことを表わす，**実現系状況可能構文**であった。

◆ スペイン語の se 中動態は，中動受身構文と非人称構文のとき，可能の意味を持つことがある。経路句を伴う移動動詞の非人称構文（(39)）は，何らかの経路で移動することを意図する動作主を文脈（談話，連文）構造上含意すると考えられ，これにより可能の意味を帯びる。つまり，**スペイン語の se 中動態は中立視点であるが，①副詞や文脈により動作主の意図・期待が含意され，②時間を超えた，③行為実現の許容性・条件としての対象や場所（の特性）があるときに限り，可能の意味を持つ**。これらは，**潜在系対象可能**ないし**潜在系場所可能構文**である。

5.3　How can each construction be located in terms to agent implicature?

最後に，構文に動作主の含意があるか否かと，対象が有情者か非情物かという観点から両言語の受身，可能とその代表的周辺構文を位置づけてみると下記の図のようになる。スペイン語は，《動作主 vs.対象》が《有情 vs.非情》のとき，動作主の含意がない自然発生的自動詞構文から中立視点の受身構文を派生させている。そして，超時で対象や場所の特性を，動作様態副詞を伴って述べる場合にのみ，潜在系可能の意味を持つ。一方の古代日本語は，《有情 vs.非情》のときに有情者である動作主に視点が行き，動作主の立場から自分に対する自然発生を述べる構文を確立したため，同じ領域に自発構文と実現系可能構文を主に発達させた。これらは，具体的な特定の時間に展開する動作主の行為を表わしており，スペイン語と対照的である。古代日本語では，動作主が完全に背景化，捨象される結果状態局面を捉えた状態受身の場合のみ，中立的視点の非情主語受身構文が成立する。

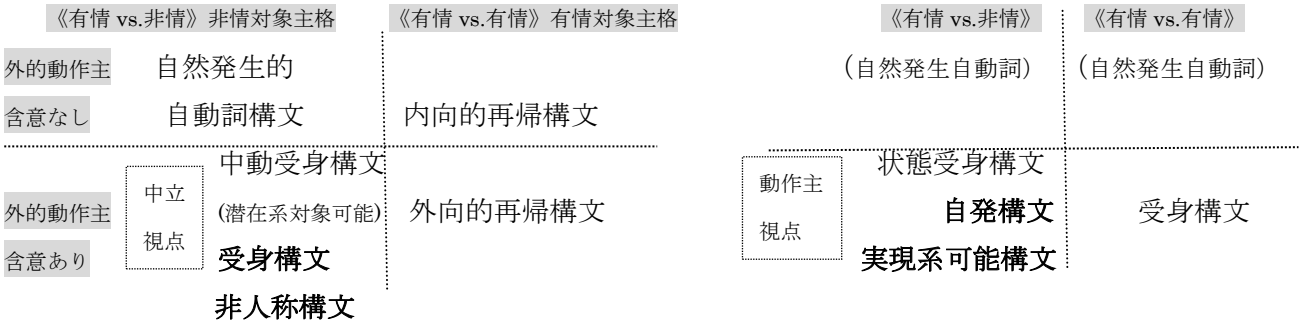

図１：スペイン語と古代日本語のヴォイス体系の比較

6. まとめと今後の課題

本発表は，古代日本語とスペイン語のヴォイス体系における受身と可能，その他の構文が同じ自然発生の自動詞から派生・拡張しながらも，意味・機能及び形式上異なるタイプの構文として発達したことを明らかにした。今後，現代日本語に至るまでのヴォイス体系の変化も明らかにし，古代日本語，現代日本語，スペイン語を対照することで，ヴォイス体系への理解を深めていきたいと考える。

【用例出典】日本語歴史コーパス（小学館『新編日本古典文学全集』より

【参照文献】尾上圭介（1998）「文法を考える 6 出来文（2）」『日本語学』17-10.／釘貫 亨（1991）「助動詞「る・らる」「す・さす」成立の歴史的条件について」『国語学』164，pp.15-28.／志波彩子（2018）「ラル構文によるヴォイス体系―非情の受身の類型が限られていた理由をめぐって―」岡崎友子他(編)『バリエーションの中の日本語史』，pp.175-195，くろしお出版.／渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」大阪大學文學部紀要 33(1): i-262.／柳田征司（1989）「助動詞「ユ」「ラユ」と「ル」「ラル」との関係」『奥村三雄享受退官記念国語学論叢』桜楓社（再録：『室町時代語を通して見た日本語音韻史』pp. 717-740，武蔵野書院 1993）／山田孝雄（1908）『日本文法論』宝文館.／吉田永弘（2013）「「る・らる」における肯定可能の展開」『日本語の研究』9-4，pp.18-32.／Haiman, John. 1983 Iconic and Economic Motivation. *Language* 59, pp.781-819.／Kemmer, Suzanne. 1993 *The Middle Voice* (Typological Studies in Language 23). Amsterdam and Philadelphia, John Benjamins..／Otero, Carlos Peregrín. 1999 Pronombres Reflexivos y Recíprocos. In Ignacio Bosque & Violeta Demonte (eds.) *Vol. 1 de Gramática descriptiva de la lengua española. 3 vols. Colección Nebrija y Bello*, pp.1427-1517. Madrid, Espasa Calpe. .／Sánchez López, Cristina. 2002 Las construcciones con *se*: Estado de la cuestión. In Sánchez López, C. (ed.) *Las construcciones con* se, 13-163. Madrid, Visor Libros.